

平成29年度（2017年度）

学校法人 愛知学院

事業計画書

# 目次

I. 組織・管理運営体制関係	1
II. 教育関係	1
III. 施設・設備整備関係	1
IV. 建物等工事関係	1
V. 設置学校関係	
(1) 愛知学院大学	2
(2) 愛知学院大学短期大学部	6
(3) 愛知学院大学歯科技工専門学校	8
(4) 愛知高等学校	10
(5) 愛知中学校	12

# 平成29年度 学校法人愛知学院の事業計画

## I 組織・管理運営体制関係

- ① 「内部監査室」における内部監査体制の構築
- ② 「法人企画室」を法人事務局内に再編し、「法人事務局企画事務室」を設置
- ③ 名城公園キャンパス事務部に「名城公園キャンパス第2期整備事業担当事務室」を設置
- ④ 大学に「法務支援センター」を設置
- ⑤ 歯学部附属病院業務電子化の推進

## II 教育関係

- ① 大学院経済学研究科経済学専攻博士課程（前期）の開設
- ② 大学定員変更及び心身科学部健康スポーツ科学科（仮称）の増設計画
- ③ 大学初年次教育・キャリア教育の充実・強化

## III 施設・設備整備関係

- ① 末盛キャンパス再構築準備
- ② 名城公園キャンパス土地取得・開設準備
- ③ 光ヶ丘キャンパス再整備準備

## IV 建物等工事関係

### ① 新規工事

（日進キャンパス）

- 1、第1グラウンド全面改修工事  
（平成29年7月着工予定～10月完了予定）
- 2、1号館外壁補修工事  
（平成29年7月着工予定～10月完了予定）
- 3、講堂舞台吊物昇降装置更新工事  
（平成29年7月着工予定～平成30年3月完了予定）
- 4、3号館地下電気室真空遮断器・電力監視ユニット類更新工事  
（平成29年11月着工予定～平成30年1月完了予定）

（楠元キャンパス）

- 1、基礎棟4階エアコン更新工事  
（平成29年8月着工予定～11月完了予定）

（光ヶ丘キャンパス）

- 1、北側隣地私道旧雨水配管撤去工事  
（平成29年5月着工予定～平成30年3月完了予定）
- 2、本館2・3階GHP空調設備更新工事  
（平成29年7月着工予定～10月完了予定）

（名城公園キャンパス）

- 1、名城公園キャンパスⅡ期整備計画土地購入費
- 2、名城公園キャンパスⅡ期整備計画設計料

（大町セミナーハウス）

- 1、大町セミナーハウス解体工事  
（平成29年7月着工予定～平成30年3月完了予定）

## V 設置学校関係

### (1) 愛知学院大学

#### 1. 仏教系大学としての取組

曹洞宗の宗門関係学校である愛知学院大学では、開祖道元禅師の教えに従い、「行学一体・報恩感謝」を建学の精神としています。本学では1年次に「宗教学Ⅰ・Ⅱ」を必須科目とし、建学の精神の涵養に努めています。また、永平寺一泊参禅・火曜参禅会・二祖三仏忌の法会を実施して、行学一体を敷衍し、東日本大震災被災地へのボランティア活動や、地域貢献として地元自治体・各団体と連携してのボランティア活動を実施し、報恩感謝の心を持った学生の育成に努めています。

#### 2. 教育改革のさらなる推進

本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を現代の若者に分かりやすくするために、「めざす人間像」を「自分の可能性に挑戦し、協働の場で主体的に活躍できる人」と定め、さらに、本学の教育理念を踏まえて大学と学部で「三つのポリシー」を策定しました。

今年度から三つのポリシーに基づく体系的で組織的に教育を実施し、全学を挙げてさらなる教育改革を推進していきます。

#### 3. 自己点検・評価及び認証評価制度の定着

進歩を続けるには、恒常的に自己点検・評価を行うとともに、自己点検・評価体制全体のプロセスを有効に機能させ、将来の発展に向けた改善・改革に実効性を確保します。

平成25年度に受けた大学基準協会認証評価の助言や指摘事項について、平成29年度は7月に改善報告を提出するとともに、来たるべき第3次の外部認証評価に向け大学全体の自己点検・評価のプロセスをさらに改善するとともに、毎年度各部課所での自己点検・評価を実施し恒常的なPDCAサイクルの確立を推進します。

#### 4. 制度改革の推進

大学の運営を効率的に行うために、意思決定の迅速性を求めるとともに、運営体制の整備を行っています。教学部門による教育・研究・社会貢献の改善努力を円滑に実現し、さらに発展させるため、法人部門と一体となった調和のとれた関係を構築し、相互理解を深め、全教職員が協力して大学を運営しています。

#### 5. 教育の質保証

平成28年度に見直した大学と各学部のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）・カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）に基づき、各学部で作成したカリキュラムマップ、新フォーマットによるシラバスを基に一貫した教育方針により最終目標であるディプロマポリシーに向けて全学一丸となって教育の質保証をより一層推進しています。また、カリキュラムポリシーを具体化するために、今年度はカリキュラム系統図、ナンバリングを策定しカリキュラムの可視化に取り組みます。

## 6. 入試制度の点検

全入試方式で結果の分析を行い、安定的に志願者を獲得するため、さらに実効性の高い入試制度となるよう改革を検討しています。

また、入試成績、入学後の学業成績、進路先を分析し、入試制度の改革に結び付けるよう検討しています。指定校制推薦では指定校選定の見直し、公募制推薦入試では出願資格の見直し、A0入試では小論文出題形式の見直し、センター試験利用試験Ⅱ期では判定日程の見直しを進めています。

## 7. FD (Faculty Development) の推進

FD活動の一環として、学生による授業評価アンケート、FD関連の研究授業・研修会等を実施していますが、今後さらに発展させるために、授業評価アンケートやピアサポート体制の見直しを実施し、FDの活性化及び実質化のための施策の導入を進めます。

## 8. 図書館情報センターの充実

図書館情報センターは、大学の教育・研究支援のための中枢機関であるとともに、生涯学習時代における社会貢献の拠点として社会からも大きな期待がかけられています。この期待に応えるため、図書館情報センターの「理念と目標」に基づき、教育・研究を支えるための基盤的施設として地域への開放など一層充実した活動を行っています。図書館情報センター設置のラーニング・コモンズ、情報検索コーナー、視聴覚学習センターなどの各施設を充実させるとともに、利用の促進と閲覧機能の向上を推進しています。

## 9. 学生生活支援の充実

学生が学業に専念できる環境づくりを心がけています。学生が休・退学で学業を停止してしまうことのないようにサポートすることは、その中でも重要な案件であり、全力で取り組んでいます。また、経済的な理由により修学が困難な学生に対する経済的支援措置については、日本学生支援機構奨学金制度を基本としますが、それを補完する制度として大学独自の奨学金制度の充実を図っています。そのほか、学内のボランティア活動は勿論のこと、学外の大学及び地域との連携構築を実施しています。さらには、学生相談センターやスポーツセンター、セミナーハウスの利用促進に向け、心身の健康増進に役立つ情報発信を更に推進してまいります。

平成24年度から各界著名人を招き、「大学生のための特別講演会」を実施しており、学生生活やキャリアデザインに悩む学生への指針となるよう今後も継続していきます。

## 10. キャリア教育・就職支援の充実

キャリア教育は、初年次教育の一環として全学共通開講科目「キャリアデザイン」を実施するほか、各学部で開講している関連科目と連携して学生のキャリアビジョンを高める施策を一層充実させていきます。また、授業科目としてのインターンシップ(2・3年生)では参加学生の研修希望先である受け入れ企業を開拓し、学生の職業選択に対する意識付けを各学部と協働して行い、卒業後の進路をスムーズに選択できるよう指導に努めています。

卒業年次生への就職支援としては、企業の採用スケジュールに基づき学生一人ひとりにきめ細

やかに対応できる体制を整え、国家資格キャリアコンサルタント資格を有する職員を配置し、面接試験対策・筆記試験対策及び学部の特徴を活かした個別相談を一層充実させ、キャリア選択の幅を広げて活動できる指導を行っています。卒業後の“より良いキャリアの選定”によって学生はもとより保護者の方々の満足度もこれまで以上に高めていきます。

エクステンションセンターが担当する資格関連講座は日進・名城公園の両キャンパスでキャンパスの特性に合わせた講座を引き続き開講していきます。希望者が増加している公務員対策講座は両キャンパスで開講するとともに、将来公務員を目指す学生のために専任の公務員支援担当者を置き、進路相談や勉強方法の相談、さらに面接の対策に加え、市役所などの自治体や警察・消防などの公的機関の方々を学内にお呼びしての説明会等を充実させています。教員採用試験対策については教職支援センターと連携を取りながら対策講座の充実を進めていきます。学生の将来のキャリアに有用な講座を設定し、受講生が合格を勝ち取ることで自信を持ち、より高い満足度を高めることを目指していきます。

## 11. 研究支援の充実

大学の研究力の指標となる競争的研究資金を積極的に導入するため、科学研究費助成事業の拡充、公的機関、助成財団、企業等の研究資金を獲得するための支援を充実させます。

また、公的研究費の不正使用、研究活動における不正行為が社会問題化している中で、本学においても研究費の適正使用、及び不正行為の防止の観点から規程・マニュアル等の整備、研究倫理教育を実施し、研究者等の不正に対する意識の更なる向上を図っていきます。

## 12. 地域連携の推進

### ① 地域活動に関わる学生を増やす

地域連携センターの活動における教育的な側面として、学生が地域で学ぶ場づくりがあります。それは、地域連携科目をカリキュラムに組み入れ、ボランティアを通じた人間性の育成や、地域問題を座学として学ぶ授業、プロジェクト型で地域の課題と一緒に取り組む事で、地域に関心を持つ学生を増やすとともに、地域の中で学んでいける学生を増やしていきます。

### ② 地域へ知の還元

大学内の研究で蓄積された成果を地域に還元するため、地域住民向けの講座を開催致しています。キャンパス内での開催、地域に出向いての開催など地域の方々の生涯学習に貢献して参ります。開放講座、公開講座、モーニングセミナーなどを開催するとともに、地域問題に対して研究会を発足し学生だけでなく教職員も地域の問題解決と一緒に成る取り組みを一層充実させます。

### ③ 地域貢献活動

地域で活躍している NPO や行政、他の教育機関などと連携して大学ができる事を考え貢献して参ります。例えば、防災に関しては、地域の防災力アップを目的に小学生との町歩きで危険な箇所を確認したり、自治会と防災情報を共有し、子育て世代と避難所体験を行うなど、NPO・行政・学校とネットワークを作り地域防災に大学が積極的に関って参ります。

また、名城公園キャンパスにおいては平成 27 年度から開催している「坐禅・法話・写経会・茶話の会」を平成 29 年度も実施し近隣住民との交流を図っていきます。

### 13. グローバル化への対応

英語によるコミュニケーションスペース「AGU English Lounge」では、外国人留学生や留学経験のある日本人学生の LA (Learning Assistant) を増員してサポート体制を強化します。

学生の海外派遣プログラムとして、「交換留学 (オーストラリア、アメリカ)」や「海外語学研修 (オーストラリア、イギリス、カナダ、中国)」のほか、アジア地域での短期実践型研修を行う「グローバル人材育成プログラム (台湾、韓国、ベトナム)」を継続していきます。

また、平成 27 年度より実施している海外研修特待生奨学金制度により、学生の英語力向上と海外研修への参加を一層促進します。

## (2) 愛知学院大学短期大学部

### 1. 教育内容の改善と充実

短期大学では1年次に「人と宗教」を必須科目として、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を理解できるよう努めています。永平寺への1泊参禅並びに式典において宗教的情操教育の実施をすることにより、建学の精神の習得に一層努めます。

教育内容の改善のため、コア・カリキュラムの配付と歯科衛生士国家試験出題基準を配付し、講義・実習の充実を図ります。

### 2. 教育力の向上と充実

シラバスの見直しと改定を図り、講義開催ごとに到達目標を示し、教育力の充実を図ります。

教員の教育力向上のため、FD活動を活発にし、教育内容並びに教育方法の改善と充実を図るよう努力します。

教育活動の評価を毎年実施しています。学生からの学生アンケート及び授業・実習アンケートを参考にして充実を図ります。

### 3. 自己点検・評価及び認証評価制度の定着

平成29年度短期大学基準協会の認証評価を予定しているため、短期大学では自己点検・自己評価委員会と第三者評価準備委員会による合同会議を開催し、認証評価に向けて鋭意準備をします。

### 4. 制度改革の推進

大学の運営を効率的に行うと共に、意思決定を速やかに行うために、大学運営の整備を引き続き行います。教育・研究・社会貢献の改善に鋭意努力し、法人部門と一体となった良好な関係を作り、相互の信頼に基づき、学長の指導のもと、引き続いて全教員が協力して大学運営します。

大規模災害等の緊急時には、本部長を学長とし緊急対策本部を置き、危機管理体制を確立します。

### 5. 教育の質保証

平成25年度に作成したアドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）に基づき改革を進めていきます。このことにより、本学における教育の質保証を確保すべく努力を引き続き行っています。

### 6. 入学制度の点検

質の高い入学者を確保するため、入試制度を見直し、安定的に入学者を確保することができるよう改革・改善を行っていきます。



## 7. FD (Faculty Development) の推進

FD 活動として、シラバス、授業アンケートの見直し、FD 関連の研修会・報告会を実施しています。FD 活動の活性化のため施策を検討し実施していきます。

## 8. 研究の充実と支援

文部科学省科学研究費並びに各種財団や学会による研究助成に応募し、より多く採択されるよう努力します。

医歯学、医療系学術の進歩発展により貢献できる学術研究を支援し、出版費用を補助します。

## 9. 歯学・薬学図書館情報センターの充実

図書館情報センターは、大学の教育・支援のための中心的機関であり、生涯学習の機関ともなるため、図書の実用と利用促進につながる積極的な活動を行います。

## 10. 学生支援

学生が学業に専念でき、休学・退学などで学業を停止することのないように、規程の学年で卒業できるようサポート体制、環境づくりに心がけます。

経済的理由により就学が困難な学生には、日本学生支援機構奨学金制度を基本に支援しています。さらに補完する制度として本学独自の奨学金・特待生制度の充実により学生支援を行っています。

各種財団、都道府県・市町村による奨学金制度を紹介すると共に、積極的に応募し、安心な学習環境を提供できるよう努力します。

## 11. 就職支援とキャリア支援

就職状況アンケートと卒業生アンケートは毎年 1 回実施し、回収後の集計結果より、教育内容の見直しに努めます。また、今後の就職活動や情報提供に利用します。

キャリアガイダンス、卒業生による就職説明会などを開催し、学生の希望に合ったキャリア支援を行います。

## 12. 地域社会と連携及び貢献

楠元祭（学園祭）やサークル活動の機会を利用し、地域社会の人々の口腔保健の増進、推進に役立つよう積極的に支援を行います。

保健所、企業、小学校・中学校に出向き、最新情報提供により口腔保健の推進と啓蒙の支援を行います。

脱タバコに関する最新情報を提供し、禁煙支援と禁煙の啓蒙活動を行います。

### (3) 愛知学院大学歯科技工専門学校

#### 1. 教育内容の改善と教育効果の向上

近年の歯科技工教育では、歯科技工の専門知識と技術の修得のみならず豊かな人間性と医療人としての倫理観、歯科医師や歯科衛生士などの歯科医療従事者とチームアプローチが行える情報処理能力やコミュニケーション力の修得などが求められており、これらの要望を2年間という短い修学期間でどのように教育するかが問われています。また、今年度からは平成26年に作成された歯科技工学教育モデル・コア・カリキュラムに対応して改定された『歯科技工士教本』が教科書として多くの講義で使用され、教育内容の見直しが必要となっています。

しかし現在、単位制カリキュラムへの移行を主眼とした新しい教育大綱の法制化による大幅なカリキュラムの改定が予定されているため今年度は既存の講義、実習のなかで、これらの要望にできる限り応えられるように対処します。

平成27年度から実施された全国統一歯科技工士国家試験は2回目を経験し、試験内容がかなり明確になってきました。今年度も学生が自信をもって国家試験を受験できるように、2年生の講義、実習科目の内容を一部改正し対応します。

専修科では、1年生の小児歯科学で専任教員の担当する講義を増やします。2年生ではCAD/CAM歯科学の講義回数を増やすとともに、新たに愛知医科大学歯科口腔外科技工室から講師を招き顎顔面補綴などに関する講義を行います。また、最先端の技工技術を学ぶために歯科メーカーの研修室で行う体験実習を実施します。さらに企業や公的機関が開催する歯型彫刻などのコンテストに積極的に参加することによってモチベーションの向上を図ります。

#### 2. 教育環境の充実

歯科技工装置を製作するための機械器具を歯学部附属病院の臨床実習に対応できるように計画的に最新のものに更新し、実習設備の充実を図ります。

また、学生が購入する技工実習器具の一部を学校用品として購入し整備することにより、学生が入学時に購入する器具の数を減らし、経済的負担の軽減を図ります。

#### 3. 学生募集広報活動

昨年、ホームページをリニューアルし Web による検索の利便性向上を図りましたが、近年スマートフォンによる検索が増加しているためスマートフォンに対応できるようにホームページを改善していきます。

学校資料の送付を大学と同じ業者に委託することで、資料請求者に対して細やかなアプローチができるようにします。

昨年はオープンキャンパスに体験実習を加え楠元キャンパスの他学科と同日に行うことにより参加者が前年に比べて1.6倍に増加しました。今年度は参加者が多かった夏休み期間に1回多く実施し、新たに専修科入学希望者に対するオープンキャンパスを秋季に1回実施する予定です。

#### 4. 学生生活支援の充実

学生が学業に専念できる環境づくりに心がけます。学生からの相談にはクラス担任と副担任があたり、きめ細かな助言や指導を行います。また、経済的な支援措置については、日本学生支援機構奨学金制度を基本とし、学校は特待生制度、愛知学院大学開学 50 周年記念奨学金を、同窓会は奨学金制度を実施しています。

#### 5. 永平寺一夜参禅

夏期休暇中に大学が実施する永平寺参禅会に希望学生が参加します。参加学生には学校が楠元キャンパスから永平寺行きのバスが発着する日進キャンパスまでの往復交通費を支給します。

#### 6. 地域社会への貢献

毎年依頼のある名古屋市立中学校からの上級学校訪問を受け入れ、体験実習等を行います。

#### (4) 愛知高等学校

##### 1. 宗教情操教育の充実

「思いやりの心」と「感謝する心」の涵養を目的として指導しています。

日常的指導としては、講堂礼拝・食事指導（食事訓）・清掃美化に努めています。年間行事としては、二祖三仏忌の宗教行事やウエサカ祭及び芸能鑑賞会への参加、そして1年時の永平寺一泊参禅研修においては道元禅師の教えを学び、本山での生活を体験します。

また、高校全学年を通じての週1時間の宗教の授業では、賢さ（智慧）と思いやりの心（慈悲）を持った生徒を育む情操教育を実践しています。

##### 2. 地域開放・土曜活用の推進

地域交流として施設を開放し、早朝参禅会・図書館利用などを行っています。平成14年度から始まった土曜日を活用する「土曜講座」では、年間10回（1日2ターム、計20ターム）におよぶ多様な講座を設定し、生徒だけではなく、父母・地域住民・一般の方にも広く開放しています。なかでも、「坐禅とお抹茶に親しむ」、「“禅”を書く」、「つくろう精進料理」などの講座は生涯教育の側面からも人気があり、好評となっています。

##### 3. 信頼される学校づくり

社会から信頼される学校づくりのため、生徒からは各教科の授業評価アンケート、保護者・地域住民の方からは学校評価アンケートを実施し、より良い教育活動を目指し精進しています。

##### 4. 国際化に対応した教育

国際化に対応した教育を展開するため、平素の授業では体験できない海外研修（アメリカ・オーストラリア）や泰北高級中学（台湾）との姉妹校交流を夏休みに実施し、海外からの留学生を積極的に受け入れ、生徒の視野を広げるよう努めていきます。また英語科では、IT設備が一新されたLL教室を利用して、アクティブラーニング形式による英会話の授業を計画しています。

##### 5. 教育内容の充実

授業の工夫と学力の定着に努めます。生徒が自由に選択できる各教科の業後講習を設け、夏休み等の長期休暇中には数多くの講習を開講、また4泊5日の集中した長時間の学習により学習意識の向上と学力の向上を目指し、東海圏内にある避暑地での学習合宿なども計画しています。

##### 6. 進学実績の向上

本校は、一人ひとりの個性を伸ばす教育を大切にしていることもあって、進学先も多岐に分かれています。同一法人の愛知学院大学に進む者をはじめ、国公立大学や他の私立大学に進学する者もいます。生徒本人の特性と希望に基づいた進路指導を行い、本人の夢が現実になるようにバックアップできるシステムを整えていきます。

## 7. 危機管理対応の強化

生徒の安全や命を守る施策を実施するとともに、防災教育を充実させ、マニュアルに沿って有事の際の対応力を高めていきます。

専門家を招いて自転車運転講習会・サイバー対策講習を実施し、安全運転マナーやインターネット利用のリテラシー向上を目指します。

## 8. 円滑な人間関係構築への支援

生徒及び教員アンケートを実施し、その結果を全員にフィードバックすることで教員対生徒、生徒対生徒のコミュニケーションが深まるよう努めていきます。

教育相談担当の教員とスクールカウンセラーが面談やカウンセリングの情報を共有し、問題を抱えた生徒が充実した学校生活を過ごせるよう心理的支援を行います。

## (5) 愛知中学校

### 1. 宗教情操教育の充実

思いやりの心と感謝する心の涵養を目的としています。

日常的指導としては、講堂礼拝・食事指導（食事訓）・清掃美化が行われており、年間の行事としては、二祖三仏忌の宗教行事やウエサカ祭、芸能鑑賞会への参加。また、週1時間の宗教の授業がなされており、賢さ（智慧）と思いやりの心（慈悲）を持った生徒を育む宗教情操教育が実践されています。

### 2. 土曜講座と体験学習

土曜日に「土曜講座」を年間5回1日2ターム計10ターム実施しています。1年「環境」2年「職業」3年「世界の中の自分」という大テーマを基にして、1年は動物園・水族館・博物館・大学・電力会社等を取材し、聞き取りまとめます。2年はサービス業・老人ホーム・幼稚園・量販店等50程の職場を2人から6人程度のグループに分かれて2日間職業体験をします。3年は個々の研修総括の形となり、1・2年次の体験及び研修旅行等を踏まえて個人で調べます。ただ取材しまとめるだけでなく、発表する力（プレゼンテーション能力）をアップすることを完成形と考えています。

### 3. 文化活動で育む豊かな感性

9月に開催される愛中祭・文化的行事では、弁論大会、演劇部やダンス部の発表、テーマに沿ったクラス展示や教科展示を行います。教科展示では、社会・理科の自由研究や英語の自己紹介文などを展示しています。また、11月にはクラスの一体感・団結を図る目的で合唱コンクールを行います。3学期には、英語スピーチコンテストを実施。1・2年生は与えられた課題文を暗唱し、3年生は自分で文章を考え英語でスピーチします。

### 4. 英会話授業

週1回、クラスを2分割し、各15～20名程の人員で2人のネイティブの英語教員が英会話中心の授業を行います。

### 5. 学校への父母参加

3学期の始業式時に餅つき大会（PTA・父母の会共催）、百人一首札取り大会を行い、愛中祭・文化的行事には軽食・喫茶コーナーを開設。PTA活動として、保護者参加の陶芸教室、高祖祖跡巡拝参禅会が行われています。